

令和 6 年 2 月 2 8 日	病害虫発生予報 3 月号	茨城県病害虫防除所
---------------------	-------------------------------	-----------

農薬は、専用の保管庫に鍵をかけて適切に管理しましょう。

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
イチゴ：アザミウマ類	1
促成ピーマン：斑点病	1
促成・半促成ピーマン：アザミウマ類	2
促成トマト：黄化葉巻病（タバココナジラミ）	2
○サツマイモ基腐病の防除対策（育苗期～植付期）	3
○麦類の生育がかなり早まっています。赤かび病の防除を適期に行いましょう！	4
【その他の病害虫】	
イチゴ、促成ピーマン、促成トマト、促成キュウリ、春ハクサイ、春レタス	5
II. 今月の気象予報 6	
<p>最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」 (https://pesticide.maff.go.jp/) で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200 ホームページでは病害虫・フェロモントラップ・農薬関連情報をご覧いただけます。</p> <p>https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/</p>	
<p>※病害虫の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病害虫の防除や農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病害虫防除所等の指導機関にお問い合わせください。</p>	



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生花率（本年値 6.4%、過去7年平均値 0.5%）、発生地点率（本年値 60%、過去7年平均値 10%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、花をよく観察し、発生が少ないうちに防除を徹底する。気温の上昇に伴い、密度が急激に増加するため注意する。
- ② 薬剤散布は、十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病度*（本年値 10.8、平年値 5.8）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 100%、平年値 45%）は平年より高い。

*発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成・半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い (促成ピーマン)	鹿行地域
	多い (半促成ピーマン)	

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、促成ピーマンにおける寄生花率（本年値 50.5%、平年値 45.5%）は平年並、一花あたりの寄生虫数（本年値 7.6 頭、平年値 3.8 頭）は平年より多い。
- ② 2月下旬現在、半促成ピーマンにおける寄生花率（本年値 75.0%、平年値 6.6%）は平年より高く、一花あたりの寄生虫数（本年値 6.7 頭、平年値 0.2 頭）は平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルスを媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が花や果実にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成トマト

1. 黄化葉巻病（タバココナジラミ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病株率（本年値 0.7%、平年値 0.1%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 22%、平年値 1%）は平年より高い。
- ② 2月下旬現在、タバココナジラミ幼虫の寄生葉率（本年値 0.2%、平年値 0.1%）、発生地点率（本年値 11%、平年値 2%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病株は見つけ次第抜き取り、適切に処分する。
- ② 媒介虫であるタバココナジラミの施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に 0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。破損がある場合は必ず補修する。
- ③ 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、タバココナジラミ成虫を捕殺する。
- ④ タバココナジラミは多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑥ 耐病性品種もトマト黄化葉巻ウイルスに感染するため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。

サツマイモ基腐病の防除対策（育苗期～植付期）

サツマイモが本病に感染・発病すると、栽培中に地上部の茎葉が枯死し、地下部の塊根（イモ）は腐敗します。また、周囲の健全な株にも病原菌が伝染するため、本病が圃場内にまん延し、大きな減収を招きます。

育苗期から生育期、収穫期から貯蔵期まで、年間を通して発生するおそれがあるので、本病の侵入防止と早期発見に努めましょう。

【病気の特徴】

糸状菌（かび）により引き起こされ、保菌した苗・イモ・残さ（畑に残った葉や茎、イモ）等が伝染源となる。貯蔵中のイモではなり首側からの変色や腐敗、苗床では葉巻や株の萎縮、葉の変色、苗基部の黒変等の症状が発生する。見かけ上は健全な苗やイモでも保菌している可能性があり、注意が必要である。

【防除対策】

1. 育苗にあたっての注意

- ・ 苗の増殖は、ウイルスフリー苗を用い、土壌消毒を行った圃場で行う。
- ・ 来歴が不明な種イモや切苗は絶対に使用しない。
- ・ 多発生地域からは、種イモや切苗を持ち込まない。
- ・ 生産者間で種イモや切苗の譲渡等を行わない。
- ・ 苗床に本病の発生が確認された場合は、速やかに関係機関へ連絡し関係機関の指導の下、発病株を施設外に持ち出し、適切に処分する。

2. 作業にあたっての注意

- ・ 発生地域と行き来のあったコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、残さや土を圃場に持ち込まない。
- ・ 作業する圃場ごとに、農機具や長靴等についた土は良く落とし、水で良く洗浄する。

3. 健全苗を確保するために

1) 苗床・育苗準備時の対応

- ・ 種イモから苗を増殖する場合は、病害等が発生していない圃場で生産されたイモを選別して用いる。伏せ込む前の種イモは消毒を行う。

2) 採苗時の対応

- ・ 採苗時のハサミはこまめに消毒を行い、苗は地際から5 cm以上の位置で切る。
- ・ 採苗した苗は、採苗当日に速やかに苗消毒を行う。
- ・ 苗消毒用の薬液は、使用当日に調製し、登録の内容に従って浸漬処理を行う。

3) 購入苗への対応

- ・ 切苗を購入する時は、基腐病対策が徹底されていることを販売店に確認し、未消毒の場合は購入後に必ず苗消毒を行う。

4. 侵入に備えた対策

- ・ 排水の悪い圃場は、本病が侵入した際、発病しやすい傾向があるため、明きょ設置や耕盤破砕、枕畝の途中に排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。
- ・ 圃場ごとに植え付けた苗の苗床の場所や採苗日、ウイルスフリー苗などの購入先を記録する。

※本病が疑われる症状を見つけた場合は、速やかに各地域の農業改良普及センターまでご連絡ください。

茨城県総合防除計画におけるサツマイモ基腐病の遵守事項

茨城県では、全国的に発生しているサツマイモ基腐病について、すべての農業者（家庭菜園を含む）の皆様を守っていただくルール（遵守事項）を定めました（令和5年4月1日に施行された改正植物防疫法に基づくものです）。

○遵守すべき事項

- ・県が実施するまん延防止のための調査に協力する。
- ・本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、圃場（苗床を含む）外に持ち出す。
- ・本病発生圃場では、2年間、サツマイモを作付けしない（関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く）。
- ・本病発生圃場から種イモを採取しない。
- ・本病発生圃場では、発生の拡大が無いことを確認する。

麦類の生育がかなり早まっています。 赤かび病の防除を適期に行いましょう！

麦類赤かび病の防除適期は、六条大麦では出穂～穂揃期に開花を確認した時（出穂期の3日後頃）、二条大麦では穂から葯殻が出ていることを確認した時（出穂期の12～14日後頃）、小麦では開花始期～開花期（出穂期の7～10日後頃）です。

本年は麦類の生育がかなり早まっているため（表）、出穂期もかなり早まるとみられます。

出穂期および防除適期は麦種や播種期によって異なるため、今後の情報に注意するとともに、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除しましょう。

表 麦の生育状況（農研速報より抜粋）

地域名	播種日	麦種	品種	対平年遅速 (予測茎立期)
水戸市 ¹⁾	11月6日	小麦	さとのそら	20日早い
		六条大麦	カシマムギ	16日早い
			カシマゴール	14日早い
	11月20日	小麦	さとのそら	13日早い
龍ヶ崎市 ²⁾	11月9日	小麦	さとのそら	11日早い
		六条大麦	カシマムギ	19日早い
			カシマゴール	16日早い
	二条大麦	ミカモゴールデン	15日早い	
	11月21日	小麦	さとのそら	7日早い

1) 茨城県農業総合センター農業研究所（茎立期の予測は2月14日現在）

2) 茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室（茎立期の予測は2月19日現在）

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	アブラムシ類		
	ハダニ類		
促成ピーマン	黄化えそ病	発生量：やや多い	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。発病株はただちに抜き取り、適切に処分する。媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底する。
	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	コナジラミ類	発生量：やや多い ～多い	2月下旬現在、平年よりやや多い～多い発生である。
促成トマト	黄化病	発生量：やや多い	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。媒介虫であるコナジラミ類の防除を徹底する。
	灰色かび病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。気象予報によると向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は少ないと予想され、発生を助長する条件である。
促成キュウリ	退緑黄化病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在、平年並～やや多い発生である。発病株は直ちに抜き取り、適切に処分する。媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病	発生量：やや少ない	2月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
春ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		
春レタス	すそ枯病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
	菌核病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	腐敗病		

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 2月24日から3月23日)

気象庁 (2月22日 発表)

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	30	40	30
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 2月24日 (土曜日) から3月1日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率 40%

< 2 週目の予報 > 3月2日 (土曜日) から3月8日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 3月9日 (土曜日) から3月22日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散 (ドリフト) しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類 (FRAC コード、IRAC コード) の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。